

研究区分	教員特別研究推進 独創・先進的研究
------	-------------------

研究テーマ	経営環境変化に伴う長寿企業の経営行動に関する研究				
研究組織	代表者	所属・職名	経営情報学部・教授	氏名	落合 康裕
	研究分担者	所属・職名		氏名	
		所属・職名		氏名	
		所属・職名		氏名	
	発表者	所属・職名	経営情報学部・教授	氏名	落合 康裕

講演題目	環境変化を乗り越える老舗企業の「つながり」
研究の目的、成果及び今後の展望	<p>創業 100 年以上の企業は、なぜ今まで生き残れたのか。長期に事業存続するには、企業は 3～4 世代の事業承継を成功させねばならない。しかし、これは容易なことではない。企業を取り巻く経営環境が変化するからである。コロナ禍にあって、休廃業を余儀なくされた企業も少なくない。</p> <p>本研究は、創業 100 年以上の酒蔵に焦点を当て、事例研究を行った。具体的には、大和川酒造店（福島県喜多方市）、南部美人（岩手県二戸市）、鈴木酒造店（福島県浪江町）であり、すべて東日本大震災で影響を受けた企業である。なぜ、事例企業は東日本大震災を乗り越えられたのであろうか。</p> <p>事例分析の結果、長期的存続を支える概念として、「縦のつながり」と「横のつながり」が重要な機能を果たす可能性が示された。第一の「縦のつながり」は、先代経営者の経営行動が地域コミュニティとの関係を通じて、現経営者の経営行動に影響を与えることが示唆された。大和川酒造店の事例によると、歴代世代経営者は地元の名士として喜多方地域のインフラ整備について私財を投じた。現九代目も会津電力（株）を設立してエネルギーの地産地消に貢献した。これらの社会貢献は、短期的には利益を生まない。しかし、将来世代も地域の恩恵（利益の源泉である地元の米と水）を受けられるのであれば長期的な利益になる。</p> <p>第二の「横のつながり」は、同業種の連携関係、地域社会のステークホルダーとの関係を示す概念である。ファミリービジネス研究では、SEW（社会情緒的資産）理論で説明される。南部美人は、東日本大震災後、売上高や利益の減少に見舞われた。厳しい環境の中、同社は岩手県酒造組合の有志と連携して、「ハナサケ・ニッポン」企画を立ち上げる。この企画は、震災後の自粛ムードの中、東北の産品を応援消費してほしいと動画再生サイトで訴えた。当時、多くの著名人などが賛同するなど、南部美人の企画は東北地方の事業者の再生の糸口を提供する取り組みになった。</p> <p>同じく、「横のつながり」としての鈴木酒造店の事例を見ておこう。同社は、日本で最も海岸に近い酒蔵であった。そのため、東日本大震災において大変な被害を受け事業存続の危機に立たされた。同社の鈴木大介氏は、東京農業大学醸造科時代の新藤酒造（山形県）の新藤氏からのサポートを受ける。新藤氏は、山形県酒造組合長に山形県内で暫定的に事業を継続できないかを掛け合った。その結果、鈴木酒造店は、山形の地で廃業する酒蔵を継承し再出発することができた。2021 年 4 月には元の浪江町の道の駅で事業を再開した。この事例からは、「横のつながり」が企業の存続危機を乗り越えるきっかけを与える可能性が示される。</p> <p>（参考文献） 落合康裕（2021）「静岡経済ゼミナール 全国の酒造業にみる 経営危機を乗り越える"つながり"の存在」『静岡経済研究所調査月報』第 59 巻第 11 号，pp. 30-34.</p>